総合型地域スポーツクラブ
公式メールマガジン

―令和元年度総集編―

特　集

テーマ別運営事例集

公益財団法人
日本スポーツ協会

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについては以下から
[日本スポーツ振興センターHP]　http://www.jpnsport.go.jp/

スポーツくじ　toto　BIG
スポーツ振興くじ助成事業

特 集 INDEX

総合型クラブを運営していくために重要な事項について、各号ごとにテーマを設けて、該当する全国のクラブの取り組みを紹介しました。

第144号 （令和元年5月20日発行）
「公認スポーツ指導者マッチング」スタート
～スポーツ指導の専門家をクラブで募集しませんか？～ ---------- 2

第145号 （令和元年7月22日発行）
「学校運動部活動と連携するクラブ」
大田原ジョイフルスポーツクラブ ---------- 12
ONOスポーツクラブ ---------- 19

第146号 （令和元年9月20日発行）
「スポーツ少年団と連携するクラブ」
NPO法人わっと楽らくスポーツふそう ---------- 24

第147号 （令和元年11月20日発行）
「学校施設・公共施設を活用するクラブ」
香南ししまるスポーツクラブ ---------- 28
那覇新都心ゆいスポーツ・文化クラブ ---------- 33

第148号 （令和2年1月20日発行）
「他団体と連携するクラブ」
NPO法人吉井スポレククラブ ---------- 37
スポーツクラブ美馬 ---------- 42

特 集

「公認スポーツ指導者マッチング」スタート
～スポーツ指導の専門家をクラブで募集しませんか？～

指導者の確保は、「総合型地域スポーツクラブに関する実態調査結果(スポーツ庁)」においても、クラブの課題として上位に挙げられています。

日本スポーツ協会では、指導者を探している総合型クラブなどとスポーツ指導の専門家である当協会公認スポーツ指導者を結びつけるウェブサイト「公認スポーツ指導者マッチング」を2019年3月8日（金）からスタートしました。

そこで、「公認スポーツ指導者マッチング」の概要やサイトの利用方法を紹介します。

1.　「公認スポーツ指導者マッチング」サイトとは？

◆ サイト概要

クラブや学校が求めるスポーツ指導の専門家（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者※）を募集・検索できるサイトです。

指導者を探しているクラブ・学校等の募集者、指導をする場所を探している指導者がそれぞれをサイト上で検索し、マッチングする機会を提供します。

サイトURL　https://my.japan-sports.or.jp/matching.html

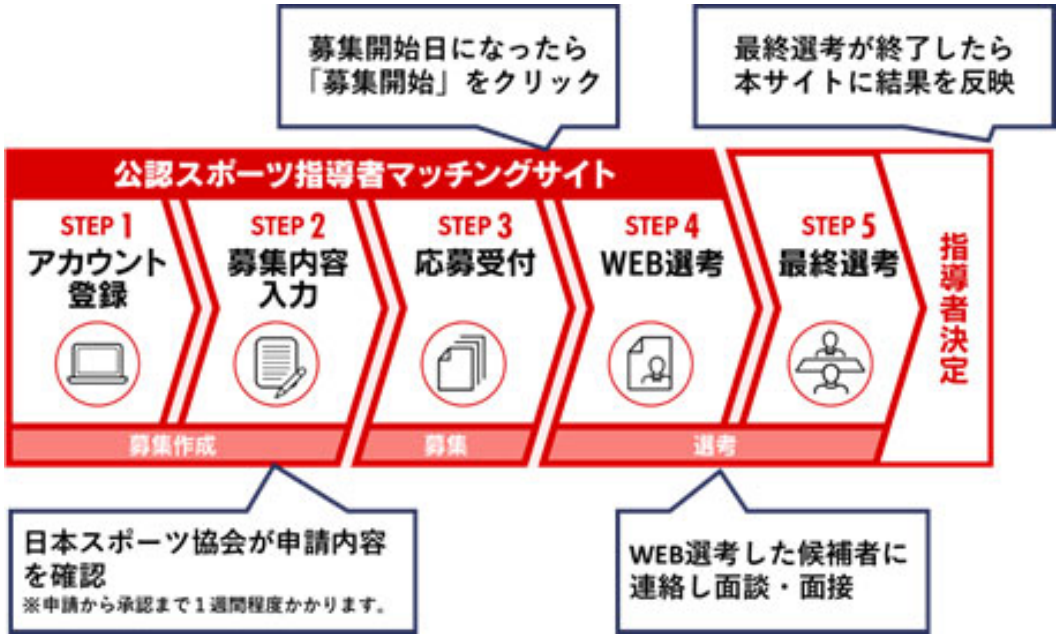
※本サイトの対象となる公認スポーツ指導者は、資格が認定されている方（サッカー、バスケットボール、スポーツリーダー資格を除く）で、「指導者マイページ」を保有されている方です。

◆ サイト設立目的

指導者を探すクラブなどと公認スポーツ指導者資格保有者のマッチングが成立することにより、学校運動部活動を巡る諸課題の解決への一助となるとともに、多くの人々がスポーツを「安全に、正しく、楽しく」実施できる環境の実現を目指します。

2.　マッチングの流れ

総合型クラブが本サイトを利用して、指導者を募集する際には、以下のSTEP1からSTEP5の順番で手続きいただきます。



STEP1【アカウント登録】

「公認スポーツ指導者マッチング」総合トップページの「新規登録」からアカウントを登録(総合型クラブ名、クラブ連絡先等の登録)してください。

STEP2【募集内容入力】

(1)ログイン

「公認スポーツ指導者マッチング」サイトにログイン

ログインURL

https://my.japan-sports.or.jp/admin/matching/login.html

(2)募集作成

①募集作成画面へ移動

②募集内容入力

募集タイトル(●●クラブバレーボール教室指導者募集等)、募集掲載期間、募集定員、指導場所、指導種目、指導対象、謝礼の詳細等の必要事項を入力。

指導者募集作成

*は必須項目です。

募集タイトル*	例：△△高校女子バレーボール部外部指導者募集
募集掲載期間*	～
募集選考期間*	１４日間　２１日間
募集定員*	1人
指導対象団体名*	例： △△高校女子バレーボール部
主な指導場所*	例:「○○市立体育館」、「△△中学校グラウンド」
主な指導場所の住所*	郵便番号　検索　ハイフン「-」を含む半角英数字で入力。例:111-0001 都道府県　北海道　市区町村 指導場所住所詳細（市区町村以下）
指導種目*	それ以外　フリーワード 競技別以外の指導者資格 ジュニアスポーツ指導員 スポーツプログラマー アスレティックトレーナー スポーツ栄養士 アシスタントマネジャー クラブマネジャー フィットネストレーナー スポーツドクター スポーツデンティスト ＊各資格に関する説明は、日本スポーツ協会のホームページをご覧ください。 ＊スポーツドクター、スポーツデンティスト、スポーツ栄養士については、「スポーツドクター、デンティスト、栄養士検索」もご活用ください。

	＊各資格に関する説明は、日本スポーツ協会のホームページをご覧ください。 ＊スポーツドクター、スポーツデンティスト、スポーツ栄養士については、「スポーツドクター、デンティスト、栄養士検索」もご活用ください。
指導期間	～ 頃
指導頻度＊	○月1回程度 ○月2回程度 ○月3回程度 ○週1回程度 ○週2回以上 ○応相談

指導時間帯＊	□全時間	□月	□火	□水	□木	□金	□土	□日
	□ ～8時	□	□	□	□	□	□	□
	□ 8時～10時	□	□	□	□	□	□	□
	□ 10時～12時	□	□	□	□	□	□	□
	□ 12時～14時	□	□	□	□	□	□	□
	□ 14時～16時	□	□	□	□	□	□	□
	□ 16時～18時	□	□	□	□	□	□	□
	□ 18時～20時	□	□	□	□	□	□	□
	□ 20時～	□	□	□	□	□	□	□

指導対象(性別)＊	○両方 ○男性のみ ○女性のみ
指導対象(年代)＊	□未就学児 □小学校低学年 □小学生中学年 □小学生高学年 □中学生年代 □高校生年代 □19~29歳 □30~39歳 □40~49歳 □50~59歳 □60~69歳 □70歳以上
指導対象(レベル)＊	□初心者 □初級（地域大会出場程度） □中級者（県大会大会出場程度） □上級者（全国・ブロック大会出場程度）
指導対象(人数)＊	30人
指導者性別＊	○どちらでも可 ○男性のみ ○女性のみ ※男女平等の趣旨やスポーツの競技特性を十分に考慮の上、選択してください。
謝礼の有無＊	○謝礼のみ ○謝礼＋交通費 ○交通費のみ ○応相談
謝礼の詳細	○１か月あたり ○1時間あたり ○1回あたり ¥ 程度
謝礼に関する特記事項	※交通費の支給方法等
その他の条件	□競技志向の指導が得意 □エンジョイ志向の指導が得意 □学校運動部活動の外部指導者としての指導経験がある □教員免許を持っている
その他コメント	

■ STEP3【応募受付】

①「募集一覧」ページから応募を開始したい内容の「募集詳細」ページへ移動する。

②「募集詳細」ページ下部の「募集開始」ボタンをクリック。

③「募集詳細」ページ右下部の「募集開始」をクリック！

募集詳細

タイトル	テストG
指導対象団体名	jspo
指導希望期間	2019-03-06～2019-03-31 頃
募集掲載期間	2019-03-06～2019-03-06 まで
主な指導場所	jspo
主な指導場所の住所	156-0051 東京都 世田谷区
指導種目	水泳
対象可能(年代)	高校生年代
指導者性別	どちらでも可
指導対象人数	30
指導対象(性別)	両方
指導可能対象(レベル)	初級（地域大会出場程度）
指導頻度	応相談
指導時間帯	
謝礼の有無	応相談

	月	火	水	木	金	土	日
～8時	☐	☐	☐	☐	☑	☑	☐
8時～10時	☐	☐	☐	☐	☑	☑	☐
10時～12時	☐	☐	☐	☐	☑	☑	☐
12時～14時	☐	☐	☐	☐	☑	☑	☐
14時～16時	☐	☐	☐	☐	☑	☑	☐
16時～18時	☐	☐	☐	☐	☑	☑	☐
18時～20時	☐	☐	☐	☐	☑	☑	☐
20時～	☐	☐	☐	☐	☑	☑	☐

※指導者からの応募があると、募集者の登録アドレス宛に本サイトから自動的にメールが送信されます。

④その他の機能（指導者検索）

募集期間中は、「募集詳細」ページから、「指導者検索」ページに移動し、公認スポーツ指導者の中から条件に合致した指導者を検索することができます。

検索で、応募してほしい指導者がいた場合には「オファー(応募依頼)」することも可能です。

指導者検索

基本情報検索

指導可能地域	東京都 ▼ 世田谷区
指導種目	競技別指導者 水泳 ▼ ▼ □ ジュニアスポーツ指導員 □ スポーツプログラマー □ アスレティックトレーナー □ スポーツ栄養士 □ アシスタントマネジャー □ クラブマネジャー □ フィットネストレーナー □ スポーツドクター □ スポーツデンティスト
指導者性別	○ どちらでも可 ○ 男性のみ ○ 女性のみ
指導可能対象(年代)	□ 未就学児 □ 小学生低学年 □ 小学生中学年 □ 小学生高学年 □ 中学生年代 □ 高校生年代 □ 19～29歳 □ 30～39歳 □ 40～49歳 □ 50～59歳 □ 60～69歳 □ 70歳以上
指導可能対象(性別)	□ 両方 □ 男性のみ □ 女性のみ
指導可能対象(レベル)	□ 初心者 □ 初級（地域大会出場程度） □ 中級者（県大会大会出場程度） □ 上級者（全国・ブロック大会出場程度）
指導可能対象頻度	□ 月１回程度 □ 月２回程度 □ 月３回程度 □ 週１回程度 □ 週２回以上 □ 応相談
指導可能時間帯	□ 全時間 □ 月 □ 火 □ 水 □ 木 □ 金 □ 土 □ 日 □ ～8時 □ 8時～10時 □ 10時～12時 □ 12時～14時 □ 14時～16時 □ 16時～18時 □ 18時～20時 □ 20時～
その他の条件	□ 競技志向の □ 学校運動部活
自由記述(フリーワード)	
オファーステータス	○ 指定なし ○ オファー済 ○ 未オファー

検索条件を入力・選択し、
「検索する」をクリック！

検索する

⑤その他の機能（指導者へのオファー/応募依頼）

「指導者検索結果」ページの「詳細」をクリックすると当該指導者に関する情報が確認できます。

その指導者にクラブが作成した指導者募集に応募してほしい場合には、「指導者検索結果」の詳細をクリックし、「指導者詳細」のページを表示します。

「指導者詳細」ページ右下の「オファーする」をクリックすると、当該指導者あてに自動的に応募依頼メールが送信されます。

指導者検索結果

「詳細」をクリック！

2件

登録番号	性別	応募ステータス	オファーステータス	詳細
	男性	応募済み	未オファー	詳細
	男性		未オファー	詳細

指導者詳細

指導者登録番号	(
指導者性別	男性
主な指導地域	東京都世田谷区/東京都渋谷区/東京都新宿区
指導種目	資格名：水泳コーチ1　有効期限：2022/03/31 資格名：　有効期限：2022/03/31
指導対象年代	未就学児 小学生低学年 小学生中学年 小学生高学年 中学生年代 高校生年代 19～29歳
指導対象性別	両方
指導頻度	週２回以上
指導可能時間帯	

	月	火	水	木	金	土	日
～8時	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐
8時～10時	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐
10時～12時	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐
12時～14時	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐
14時～16時	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐
16時～18時	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐
18時～20時	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐
20時～	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐

指導可能レベル	初心者 初級（地域大会出場程度） 中級者（県大会大会出場程度） 上級者（全国・ブロック大会出場程度）
指導履歴・自己PR	
応募ステータス	応募済み
オファーステータス	未オファー

「オファーする」をクリック！

オファーする

■ STEP4【WEB選考】

①応募してきた指導者の詳細を確認

当該募集の「募集詳細」ページ下部に「応募者一覧」として表示されます。

「詳細」をクリックすると、指導者の資格情報などの確認ができます。

※選考に伴う候補者の連絡先は、募集期間終了後から確認可能です。

応募者一覧

情報開示可能件数：1件

1件

「詳細」をクリック！

登録番号	性別	応募ステータス	オファーステータス	詳細	情報開示
	男性	応募済み	オファー済み	詳細	情報未開示

②面接・面談を行いたい指導者との連絡調整

募集期間終了後、「応募者詳細」の画面右下に表示される「選考対象にする(連絡先等開示)」から応募者の連絡先を確認し、面接や面談を行います。

応募者詳細

指導者登録番号	
指導者性別	男性
指導可能場所	東京都世田谷区/東京都渋谷区/東京都新宿区
指導種目	資格名：水泳コーチ1　有効期限：2022/03/31 資格名：[illegible]　有効期限：2022/03/31
指導対象年代	未就学児 小学生低学年 小学生中学年 小学生高学年 中学生年代 高校生年代 19～29歳
指導対象性別	両方
指導頻度	週２回以上
指導可能時間帯	
指導可能レベル	初心者 初級（地域大会出場程度）[illegible]上級者（全国・ブロック大会出場程度）
指導履歴・自己PR	初心者の[illegible]
応募ステータス	応募済み
オファーステータス	未オファー

	月	火	水	木	金	土	日
～8時	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐
8時～10時	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐
10時～12時	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐
12時～14時	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐
14時～16時	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐
16時～18時	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐
18時～20時	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐
20時～	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐

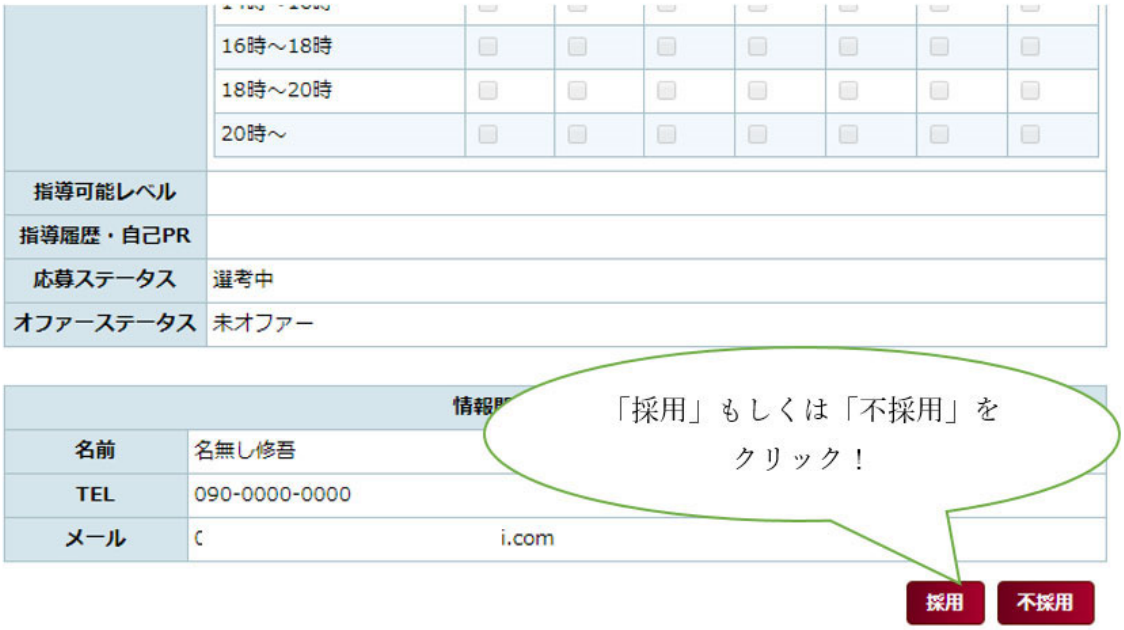
「選考対象にする(連絡先等開示)」をクリック！

選考対象にする(連絡先等開示)

■ STEP5【最終選考】

選考結果の反映

面談・面接後、選考結果を「応募者詳細」画面右下に表示される「採用」・「不採用」のいずれかをクリック。



3.　さいごに

本マッチングサイトを活用することで、「指導者不足」の解決につながる可能性があることに加え、今までクラブと接点のなかった有資格者ともつながり、クラブの存在を地域にアピールするチャンスにもなり得ます。

ぜひ本マッチングサイトをご活用いただき、全国のクラブが持続的に活動するための一助となればと思います。

※本サイトの使用方法や説明画像は5月10日時点のものであり、今後予告なく変更する場合がございます。

最新の情報は、本サイト内に掲載しているマニュアルをご参照ください。

特 集

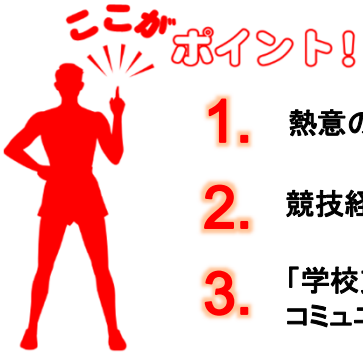
学校運動部活動と連携するクラブ

大田原ジョイフルスポーツクラブ
＜栃木県大田原市＞

中学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

このような中、平成30年3月にスポーツ庁において「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定され、ガイドラインの中で総合型クラブと中学校運動部活動の連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。



1. 熱意のある先生の活動の場を奪わず、求めがあった場合に指導者を派遣
2. 競技経験のない顧問の部活では、あくまでも先生のサポートが主目的
3. 「学校支援地域コーディネーター」が学校側と緊密な連携とコミュニケーション

1 クラブ概要

活動地区である大田原東地区は大田原城の城下町を中心とした地域であり、古くから中心的な役割を担ってきた商工農三拍子そろった恵まれた地域です。また、小学校1校・中学校1校と少なく、地域と学校が連携しやすい地区でもあります。一方でスポーツや文化活動に目を向けてみると、多様化する住民のニーズに応えるための施設が少なく、小中の2カ所の施設および地区公民館を各自治公民館やPTA単位で利用しているのが現状でした。また、地区全体での様々なコミュニケーション不足も懸念され、このままでは「体を動かす」「コミュニケーションの輪を広げる」機会や場が少なくなり、住む人の顔が見える地域社会でなくなる心配もありました。

そのような状況の中、平成24年度に「大田原東地区生涯学習推進協議会」が中心となって「学校支援本部事業」が立ち上がり、それを契機に地域・学校・保護者の距離が一気に縮まり、活発な議論や活動が展開されるようになりました。その活動をとおして「学校内でのスポーツ」や「コミュニティーとしてのスポーツ」等の様々な問題点が浮上し、それを解決するために、地区担当のスポーツ推進委員が中心となって平成26年2月に総合型地域スポーツクラブ「大田原ジョイフルスポーツクラブ」を設立しました。

● クラブの理念

「子どもからお年寄りまで参加できるコミュニティーの場として、そして、誰でも・いつでも・いつまでも活動できるスポーツや文化活動の場を提供することを目的とする。また、各世代に応じた適切な一貫指導を行える場としての役割も担い、世代・自治公民館・PTA等の枠を超えたコミュニティーづくりや個人の健康維持、体力・技術の向上等に貢献し、最終的にスポーツ・文化活動環境の一元化と共に『笑顔あふれるわがまちづくり』を目指す」

このクラブ理念を基礎に、地域住民が主体となって活動しています。また、コミュニティーの可能性を追求するという理念に基づいて告知や宣伝は行わず、口コミのみで活動を展開しているのが特徴で、現在では地区外や他市町の会員も多く存在し、年々会員数を伸ばしています。さらに、主体性（イニシアチブ）を保つ観点から、教室やイベント等はすべて地域住民の要望に応じて開催しています。

設立から5年目の平成30年度は会員数が211名で、教室を「チャレンジ」と「テクニカル」併せて12教室、「ひろば」を2つ開催し、延べ3701名が参加してくれました。「チャレンジ」は初心者が取り組みやすい環境づくりやプログラムの提供を目的とし、「テクニカル」は経験者がより深い技術力や戦術等を学びやすいプログラムの提供を目的としています。また、「ひろば」は特定のプログラムを提供せずに参加者が主体的に活動できる場の提供を目的としています。

令和元年度現在は、ソフトテニス（チャレンジとテクニカル）教室、バレーボール教室、ミニバスケットボール（チャレンジとテクニカル）教室、バスケットボール教室、卓球ひろば（ここまでが学校に部活動がある種目）を開催。これ以外にもテニス（チャレンジとテクニカル）教室、バドミントン教室、ソフトバレーボール教室、ヨガ教室、エアロビクス教室、あそびひろば、軽音楽ひろばを要望により開催しています。

2 学校の求めに応じて学校支援事業を展開 小学校の要望にも対応

学校教育と生涯教育との一貫性、そして学校と地域の教育理念の共有が根幹にある学校支援事業は現在、「大田原東地区生涯学習推進協議会」の中で「学校支援部」として展開しています。「大田原東地区生涯学習推進協議会」と密接な関係にある当クラブは「学校支援部」の中に理事6名を派遣し、「学校支援地域コーディネーター」としてクラブマネジャーを含む4名が学校側と緊密な連携をとっています。その中で学校の求めに応じて支援のあり方をその都度構築しています。学校支援事業の対象は小・中学校なので、中学校だけでなく小学校運動部（スポ少）からも求めがあれば応じています。

特に中学校部活動は、先生と生徒のコミュニティーの場であると同時に、学校教育の一環であることが重要であるとの考えから、そして、熱意のある先生の活動の場を奪ってはいけないとの立場から、求めがあった場合に派遣することにしています。

過去には、「第二部活動」「吹奏楽部・サッカー部への綱引き指導」「バレーボール部指導支援」等の活動を中学校で展開してきました。また、「様々な理由により部活動に参加できなくなった生徒」や「不登校ぎみになった生徒」の相談も受け付け、その生徒の教室への受け入れもしています。そして現在では、バスケットボール部の指導支援を週1回程度実施しています。

3 過去には「所属外の部活動体験の推進」など ユニークな取り組みも

● 第二部活動

最初に中学校から「所属している部活動以外の種目を生徒に体験させたい」との学校の求めを「学校支援地域コーディネーター」が聞き入れて、計画がスタートしました。

その後コーディネーターと学校が協議を重ねて、3年生の受験を考慮して5月～10月までの活動とすること、「文化部所属の生徒は運動部」「運動部の生徒は文化部活動」に参加すること、実施日は職員会議等で部活動のない月曜日を隔週で当てることが決まりました。

運動種目はサッカー、ソフトテニス、野球、卓球等既存の部活動種目にバドミントンを加えて行い、それぞれにスタッフを派遣しました。中学校部活動はあくまでも学校教育の一部であり、学校が主体であるべきという立場から、当クラブは「指導補助（支援）」としてスタッフを派遣しています。どんなに丸投げされても、指導補助の形は崩しません。この方法は、「指導者の暴走」や「指導の一貫性」、「顧問の先生が軽んじられる」のを防ぐ狙いもあります。逆に熱意のある先生が時間に余裕があるときに当教室の指導に来てくれた際は、主体はクラブですので、「指導補助」でお願いしています。

その後3年間活動し、生徒や保護者から喜ばれていましたが、授業時数増加に伴う時間的な理由等（校長先生が代わると事業の継続が困難になる側面もあります）により、残念なことに現在は行っていません。

● 「バレーボール部」「バスケットボール部」等の指導補助活動

特に経験の無い先生が顧問に就く場合に、学校からの求めがあります。この場合、顧問の先生から直接コーディネーターに接触があり、その後、顧問の先生とコーディネーターが直接話し合い、現状を共有し、支援の在り方（指導方法、指導プログラムの提供、期間もしくは期日、人数等）などの調整を重ねて実施します。ここで重要視するのが、あくまでも先生のサポートが目的であることです。先生と連携せずに派遣指導者が独り善がりの指導をすれば、生徒たちの混乱を招くだけなので、人選には特に注意して派遣しています。

● 小学校（スポ少）への指導者派遣活動

ある部活動で顧問の先生と保護者の間でトラブルが発生し、間に入った教頭先生がほとほと困って、地元の「スポーツ推進委員」に相談が持ち込まれました。顧問の先生と保護者双方に種目経験がないのが主な理由でしたので、クラブから指導者を派遣することを決定しました。特に平日の活動に支障があるとのことでしたので、人選したのち学校と保護者の了解のもと、2名の指導者を派遣しました。それが慣例化して、現在もそのまま派遣活動を継続しています。

以上の実践例をあげてみましたが、これ以外にも小学校体育授業や小学校クラブ活動事業にも指導者を派遣しています。体育授業は担任の先生からの求めに応じて適宜派遣。クラブ活動ではニュースポーツクラブを委託され、種目の選定からプログラムの提供・実施までを通年行っています。特に気をつけているのは、「手段や目標が目的化しない」ということです。分かりやすく説明しますと、手段や目標はあくまで目的達成のための流動的な方策であって、そこに向かって努力し、検証することは必要ですが、結果にこだわりすぎないことが大切です。

反対に、私たちが常にこだわらなければならないのが、「目的実現のために一歩進んでいるか」という一点です。こうした視点に立った上で、当クラブの理念や生涯教育理念、学校教育理念の実現を目的として、学校の求めに応じていくことが大切と認識しております。

4 コーディネーターの存在が学校側に安心感与える

「学校支援地域コーディネーター」が常に学校に出向きコミュニケーションをとっていることで、「気軽に安心して相談できる」と学校側からも評価をいただいています。派遣する人材も、理念の共有ができる人が原則ですし、初めての方を派遣する場合は顔の知れているコーディネーターが初回に同行することで、先生や生徒からも信頼を得られています。

● 保護者が地域に参画しやすい環境を醸成

一方で学校支援を機に地域でも様々なコミュニケーションがうまくとれるようになり、保護者が地域に参画しやすくなった事例が報告されています。結果、当クラブにも様々な要望が寄せられるようになり、嬉しい悲鳴を上げているところです。

5 50歳代の会員に指導者への道
教室等で次期指導者を育成

学校支援の一番の課題は、人材の確保です。理念を共有できる人材であることはもちろんですが、およそ午後4時から6時という部活動の活動時間も大きく影響しています。時間に余裕がある指導者となると、なかなか見つからずに苦労している現状があります。当クラブでは、この問題を打開するために、教室等において次の指導者を育成し、良きリーダーシップを発揮できる人材の確保を目指しています。まだ、設立して6年目を迎えたばかりなので、驚く成果は発揮できていませんが、時間をかけてでもしっかりと取り組むべき課題と認識しています。特に50歳代の会員には、間もなく迎えるであろう定年後や、子育て期間終了後での新たな生きがいづくりの一環として、積極的に働きかけています。

● 始動した「学校運営委員会」にクラブ理事が参画
→ 学校側の異動で生じる課題解消へ

また、もう一つの課題として先生の異動の問題があります。特に校長先生が代わった時が一番の課題で、それまで有効に機能していた活動が終了の憂き目に遭うことがあります。この問題を打開するには、コーディネーターのコミュニケーション能力に頼るところが大きかったのですが、うまくいかない事例も何度かありました。ところが幸いにも、平成30年度より大田原市で小中一貫教育がスタートし、それに併せて地域が学校の運営に携われる「学校運営委員会」がスタートしました。今年度から本格的に活動するにあたり、当クラブの理事も「学校支援コーディネーター」として学校運営委員会に参画し、4月の委員会において部活動支援の恒久的な在り方について議論し、計画を立てていくことで一致することができました。

● 中学生にも校外ボランティ活動の場を提供へ

さらに、中学校教育では「学校に来て生徒を教えてもらうより、生徒が地域に出て社会活動の中で自己研鑽してほしい」という熱い思いもあります。この課題に対して、当クラブでは高校生以上に限定していたボランティアスタッフの枠を拡充し、中学生もボランティアスタッフとして活動する校外活動の場を提供することにし、併せて活動証明書が発行できるように、現在、理事会において熟議をしています。

（大田原ジョイフルスポーツクラブ　理事長兼クラブマネジャー　菊池貴章）

バレーボール教室

バスケットボール教室

クラブ プロフィール

設立年月日　平成26年2月28日

所在地　栃木県大田原市大田原東地区

運　営　会員数211名（平成31年3月末現在）、予算規模115万円（令和元年度）

有給職員　0名

特　徴　大田原市大田原東地区（対象エリア人口:約10000人）を中心に、スポーツや文化活動を通して、子どもからお年寄りまで同じ環境下で参加できるコミュニティーの場を提供する活動をしています。現在、5歳の幼児から小中学生、高校生、大学生、74歳の社会人まで、各年代が途切れない形で会員が分布しているのが特徴です。

連絡先　〒324-0055　栃木県大田原市新富町1－2－22

電話番号　0287-22-2012　　FAX　0287-24-2251

E-Mail　ootawara_print@yahoo.co.jp

特 集

学校運動部活動と連携するクラブ

ONOスポーツクラブ
＜愛媛県松山市＞

中学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

このような中、平成30年3月にスポーツ庁において「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定され、ガイドラインの中で総合型クラブと中学校運動部活動の連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

1. 外部指導者として部活動に参加
   他県チームとの交流大会開催が指導者・生徒に好評
2. 学校の顧問・教頭先生にクラブ側からコミュニケーション→意思疎通図る
3. 市教委、学校、クラブによる3者協議会を設け、率直に意見交換

1 クラブ概要

平成23年当時、生徒数の減少やそれに伴う教員数および部活動競技数の減少など、中学校運動部活動（以下部活動）を取り巻く環境は決して楽観視できるものではなくなっていました。そこで私たちは地域の「人財」を活用し、松山市小野地区の子供たちのスポーツ環境向上の一助となることを目的に、同年4月に中学校PTA役員、保護者が中心となって「小野スポーツ交流実行委員会」を設立しました。

まず取り組んだことは、部活動への人的支援です。女子バレーボール部、野球部に外部指導者として参加、顧問の指導をサポートしました。続いて、日頃対戦する機会の少ない他県チームとの試合機会を増やすことを目的に、交流大会を開催しました。参加した指導者の皆様からは、県外チームとの交流のきっかけを得ただけでなく、「子供たちのモチベーションアップにもつながった」ーなど評価の声を得ることができました。

その後、私たちの活動を知った行政からの勧めもあり、平成25年4月、総合型地域スポーツクラブ「ONOスポーツクラブ」として活動することとなりました。「スポーツを通じて子供たちを、地域を笑顔に」を理念に子供から大人まで誰もが参加できるクラブを目指して活動を続けています。

現在の活動は、軟式野球交流大会（中学生大会、U18女子大会）、スポーツ教室（硬式テニス、バスケットボール、軟式野球、スポーツウエルネス吹矢）、各種イベント（どろんこ大会、ティーボール教室）を開催しています。また外部指導者として小野中学校野球部、女子バレーボール部、男子バスケットボール部に参加しています。

2 生徒・保護者の声を受け硬式テニス教室を開設

非部活動でも学校代表として中体連主催大会に出場し好成績

平成25年、地域で公共のテニスコートを使って練習をしていた小野中学校の生徒、保護者から硬式テニス部を作って欲しいという要望が学校にあがりました。しかし、部の新設は顧問および練習場の確保等の問題で認められませんでした。保護者からは、「週末のコート予約は難しく使用料の負担も大きい、部活動は無理でも学校のコートが空いている時に地域で使用することは出来ないだろうか」、との意見がでました。

そこで、クラブがテニス練習をしている子供たちを受け入れ教室を開設、「総合型地域スポーツクラブ」として学校に使用許可を求めました。その結果、週末の空いている時間帯の使用を認められたばかりか、中体連主催の大会へ学校代表として出場することも認めてくれました。

部活動ではありませんが、学校施設での練習、中体連主催大会への出場は子供たちのモチベーションアップにつながり、成績も女子団体が平成28年度四国総体第3位になるなど、着実にレベルアップしてきました。

3 週末の部活動休養日や平日夜間に各種教室を開催

活動の場を提供することで、保護者・子供たちの不安を緩和

平成30年3月にスポーツ庁から発表された「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に対して、保護者・子供たちから「スポーツをやりたい子供たちのことを考えているのか」、「部活よりもクラブチームに入った方がいいんじゃないか」など、活動時間が減らされることへの不安や不満の声が上がりました。

そこで、部活動の外部指導者が中心となり、週末の部活動休養日や平日夜間に「ONOスポーツクラブ」としてバスケットボール教室、野球教室を開催、子供たちに活動の場を提供することにしました。

部活動生徒のクラブ加入は強制でなく任意　テスト期間は学校の方針に歩調合せる

教室開催にあたり、それぞれの部活動に入っている子供たちには、クラブへの加入は強制でないことを説明、勉強や遊びの時間を持ちたいという子供にも配慮するようにしました。学校とのコミュニケーションについてもクラブ側から取るようにしています。グラウンド・体育館の使用調整や練習内容・日程の調整に関しては部活動の顧問の先生と相談し、学校とクラブ間の調整事項については教頭先生と話し合っています。こうした意思疎通を図った上で、練習日や指導・練習内容の調整など、部活動の指導方針と乖離（かいり）しないよう心がけています。また、テスト期間など学校が部活動を停止している時はクラブも練習を行わないなど、学校の方針にも歩調を合わせるようにしています。

現在、バスケットボールが平日の夜2回と週末の部活動休養日に、野球が週末の部活動休養日に練習しています。部活動休養日における体育館、グラウンドについては、テニスコート同様、使用を認めていただくことができました。

4 スポーツ少年団指導者と地域の有志も教室運営に協力

小野地区ではスポーツ少年団や社会体育など、スポーツを通じて地域の大人が子供を育てようとする「文化・風土」があったこともあり、スポーツ少年団指導者、地域の有志の皆様から「小野の子供たちのためなら」と子供たちへの指導、教室の運営に協力を得ることができました。

クラブに参加した子供の保護者からは「もっと上手くなりたい！という子供たちの気持ちを地域で支えていただいて本当にありがたい」、中学校長からは「部活動がいい成績を収められるのは、社会体育や外部指導者の指導のおかげ」と感謝の言葉をいただいています。

5 クラブ側の役割は事業の調整とフォローが中心

現在、当クラブの取り組みは松山市の「部活動地域連携モデル事業」となっており、今年の1月と6月、松山市教育委員会、小野中学校と当クラブで協議会が開催されました。この協議会を通じて部活動に関する諸課題やガイドラインに関する互いの思い・考え方を率直に話し合うことができています。

昨今、「学校運動部活動」という日本のジュニアスポーツを支えてきた文化が変革期を迎えています。部活動と地域の連携については、いろんな考え方、やり方があると思いますが、どのような連携の形をとることが「大好きなスポーツをやりたい」という子供たちの思いに応えることになるのか、関係機関とも協議しながら、今後も活動していきたいと思います。

（ONOスポーツクラブ　クラブマネジャー　篠原昌也）

ティーボール教室の様子（高校・中学野球部連携イベント）

クラブ プロフィール

設立年月日　平成25年4月1日

所在地　愛媛県松山市小野地区

運　営　会員数101名（令和元年6月1日現在）、予算規模260万円（平成30年度）

有給職員　0名

特　徴　平成25年4月設立のONOスポーツクラブは、役員全員がボランティアの任意団体として活動しております。設立当初から小野地区の子供たちのスポーツ環境向上のため、スポーツ少年団、中学校部活動および様々な企業や競技団体との連携を図っております。昨年度からは競技人口拡大のため、愛媛県高等学校野球連盟および小野中学校野球部の協力を得て、未就学児童・小学校低学年を対象に高校球児が指導する「ティーボール教室」も開催しています。

連絡先　〒791-0244　愛媛県松山市水泥町907-1　ONOスポーツクラブ連絡事務所

電話番号　090-3787-9469　　FAX　089-970-1581

E-Mail　fwkv5501@gmail.com

URL　https://ja-jp.facebook.com/ono.sportsclub/

県外チームとの交流（バスケットボール）

中学校グラウンドでの練習の様子（野球）

中学校テニスコートでの練習の様子（テニス）

中学校体育館での練習の様子（バスケットボール）

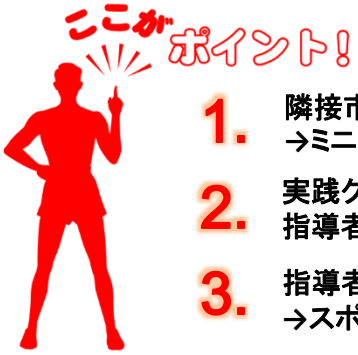
特 集

スポーツ少年団と連携するクラブ

NPO法人わっと楽らくスポーツふそう
＜愛知県丹羽郡扶桑町＞

総合型クラブは地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのために、スポーツ少年団をはじめとする地域のスポーツ団体等と相互扶助の関係を築き、地域社会からの信頼性を確保し、地域に根差す団体となる必要があります。

そこで今回は、スポーツ少年団と連携し、地域におけるスポーツ推進体制を高めているクラブを紹介します。



1. 隣接市でスポーツ少年団・ミニバスを指導する町内在住者がキーマン
→ミニバス教室が大きく発展
2. 実践クラスはスポーツ少年団に自動登録、
指導者はスポーツ少年団認定員養成講習会に参加
3. 指導者と事務局で役割分担を明確化
→スポーツ少年団活動がスムーズに機能

1 クラブ概要

平成22年10月の第1回総合型創設検討会議に続き、平成23年1月に第1回設立準備委員会を開き、クラブ設立に至るまで計7回の設立準備委員会を開催しました。設立準備委員会は町民主導型の活動を目指し、特定非営利活動法人ふそうスポーツクラブ（現在は本クラブと合併）、扶桑町体育協会および同町スポーツ推進委員会の代表者で構成し、三つの団体が一体となり設立に向け話し合いを進め、平成24年2月25日に設立総会を開催し、平成24年度より事業をスタートさせました。

本クラブの理念は、「①ふれあおう ②そだてよう ③うごきだそう」です。総合型地域スポーツクラブの大切な三つの条件「多世代・多種目・自主運営」を基本にして、人とのつながりを大切にしながら、楽しいスポーツの機会を増やし、健康づくり活動を進めるとともに、子どもたちの体力・運動能力の向上を目指しています。

今年度は設立から8年度目になりますが、今年度開催しているスポーツ種目は22種目です。設立年度の開催種目が14種目でしたので、種目数はかなり増えたと思います。しかし、毎年順調に種目を増やすことができたわけではありません。体験教室を開催したものの定期的な開催ができなかった種目や、受講者が少なく閉講しなければならなかった種目もあります。現在も、扶桑町という地域に合ったものを試行錯誤しながら実現させていく努力はしています。

本クラブの事業の中心になっているものは、教室とサークルの運営ですが、単発的な活動としてグラウンド・ゴルフ大会、スナッグゴルフ大会、1泊2日の夏休み自然教室、日帰りバスツアー等もイベント事業として行っています。また、今年度で3年目になりますが、お茶を飲みながら懐かしの歌を歌う「うたカフェ」のような文化的コミュニティー活動も行っています。今年度初の事業としては、夏休みに小学生を対象に、夏休みの宿題のお手伝いをする「宿題ひろば」を開催しました。

2 体験教室のミニバスが、計５クラスの通常教室に発展

本クラブの教室の一つにミニバスケットボールがあります。この教室は、設立から2年目に通常教室として開講しました。町内在住で、当時、隣接の市でスポーツ少年団のミニバスケットボールの指導をしていた方が、「ぜひ、自分が住んでいる地元で小学生にミニバスケットボールの楽しさを伝えたい」、さらには「中学校での部活動にもつなげられたらいいな」という思いで、本クラブに申し入れがありました。それが教室として実現したのです。

設立年度は期間限定の体験教室からスタートし、小学3年生以上を対象にした基本クラスだけでした。3年度目に、実践クラスも設けました。さらには、対象も年長以上となり、現在は、基本クラスが3クラス、実践クラスが2クラスに分かれて活動しています　。各クラスの活動人数は同一ではなく、基本クラスがA30名、B35名、C60名、実践クラスはA35名、B25名の構成となっています。月１～２回の活動頻度で、２～4名の指導者で対応しております。

競技性より健全育成を重視→クラブ理念と合致したのがスポ少大会

クラス数が増え練習を重ねていくと、子どもたちは試合や大会に出たいという思いが、どうしても強くなります。本クラブのミニバスケットボール教室は競技性よりも子どもたちの健全育成を第一に考えています。こうした方針やクラブ理念と合致する大会を探したところ、たどり着いたのがスポーツ少年団の大会でした。そして、スポーツ少年団の大会に参加するために、実践クラス受講者全員をスポーツ少年団に登録することにしました。幸い、指導者は以前からスポーツ少年団に精通し経験や実績もある方でしたので、他のスポーツ少年団との交流もあり、問題なく進めることができました。

スポーツ少年団への登録に際して、初年度は任意でしたが、次年度からは募集要項のミニバス実践クラス欄にスポーツ少年団登録を自動的にする旨を記載しています。登録料は対象者から個別に集金して対応しております。また、指導者の登録ですが、新たな指導者登録予定者には、スポーツ少年団認定員養成講習会に参加してもらいました。ただ、講習会の開催日と参加者の都合との調整が大変でした。

3 指導者はミニバスに専念、スポ少の事務作業はクラブ事務局が担当

ミニバスケットボールに直接関わることは完全に指導者にお任せする一方、スポーツ少年団に関わる事務的な作業は、本クラブの事務局が担うこととしました。年度ごとの更新の手続きや大会の申し込み等が、本クラブ事務局の仕事となっています。また、扶桑町スポーツ少年団本部の理事会は、各スポーツ少年団からの代表者によって組織されているため、この理事会にも本クラブ事務局が出席しています。このように、ミニバスケットボールの指導に関わることと事務的作業の役割分担は、必然的ではあったかもしれませんが、うまく機能していると思います。また、他の少年団と合同で体力テストを年2回実施するようになり、他の少年団のことを知るきっかけとなりました。

4 町の支援で活動場所を優先的に確保、町でミニバスが徐々に定着

スポーツ少年団の指導者からは、「事務的作業の軽減ができていることは大変助かっている」と言っていただいています。活動場所は、町の支援もあり本クラブが優先的に確保できるため、保護者が場所取りに苦労するということもありません。最近では、本クラブを受講していた子どもが中学校の部活動で活躍している姿もよく目にします。指導者の熱意が、扶桑町でのミニバスケットボール定着に少しずつ実を結んでいったのではないかと感じています。

5 受講者のニーズ満たす活動のためにも、指導者等の人材確保が不可欠

本クラブが今後考えなければいけないことは、限られた施設・時間の中でいかに受講者に十分な活動の提供ができるかということです。受講者が増えると、その分一人当たりの活動量が減ってしまいます。その心配を解消するためには、多くの指導者の確保が必要と考えます。また、ミニバスケットボールだけではなく、本クラブ全体においても、指導者に限らずいろいろな立場で関わることができる人材の確保は、今後のクラブの発展にとって大切な要因であり、大きな課題です。

（NPO法人わっと楽らくスポーツふそう　事務局長　西岡秀子）

クラブ プロフィール

設立年月日	平成24年2月25日
所在地	愛知県丹羽郡扶桑町
運　営	会員数835名（令和元年8月現在）、予算規模1,928万円（令和元年度）
有給職員	3名
特　徴	町内唯一の総合型地域スポーツクラブとして行政が積極的に支援してくれています。町内の限られたスポーツ施設を利用して、一人でも多くの人にスポーツを親しんでもらえるよう、たくさんの種目を前向きに取り入れプログラムを組んでいます。また、スポーツだけではなく、住民交流の場としてコミュニティーの輪を広げるために、バスツアーや文化的活動も行っています。
連絡先	〒480-0103　愛知県丹羽郡扶桑町大字柏森字平塚370 TEL　0587-93-2511　　FAX　0587-93-2511 E-Mail　watt@fuso-sports.com URL　http://fuso-sports.com

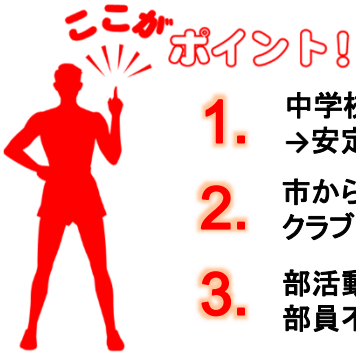
特 集

学校施設・公共施設を活用するクラブ

香南ししまるスポーツクラブ
＜香川県高松市＞

総合型クラブが日常的な活動拠点として地域における身近な施設である学校施設・公共スポーツ施設・公民館等の社会教育施設を確保することは、クラブの安定的な活動・運営につながります。

そこで、学校施設・公共施設を活用し、地方公共団体や学校教育機関と連携する事例を紹介します。



1. **中学校体育館内にクラブ事務所設置**
   →安定した活動拠点を継続的に確保
2. **市からの体育館管理業務委託金は管理事務担当者への謝金に**
   クラブ運営はボランティア
3. **部活動にない硬式テニスをクラブで実施**
   部員不足解消のため小学生にバレーボール指導も

1 クラブ概要

本クラブは、平成18年1月に高松市と合併した旧・香南町にあります。旧町時代、当時の町教育委員会社会教育主事の指導のもと、町体育指導委員会で総合型クラブについて研修（研究大会の参加・県外視察等）を行い、「我が町にも総合型クラブが必要」と考えるようになりました。高松市との合併を目の前に控えた平成17年6月、町体育指導委員および趣旨に賛同する関係者で設立準備委員会を発足。高松市とも活動場所等について交渉しながら、アイデアを出し合い、同年12月に設立総会を開催しました。

本クラブは、地域住民が自発的にスポーツを楽しみ、各自の健康・体力を増進するとともに、地域社会での交流を広げ連帯を深めることによって、明るく豊かな生活の実現に資することを目的としています。

現在、13種目の定期活動の他、会員以外でも参加できるオープン大会（テニス、キンボール・スポーツ等）や、餅つき、スキーツアー、スプリングウォークといった各種イベントを開催。他にも地域の清掃活動や、香南地区コミュニティ協議会の構成団体として、各種イベント（運動会、夏祭り、文化祭）への参加・協力にも取り組んでおり、香南地区になくてはならないクラブへと成長しています。

2 合併を契機に高松市に学校施設活用を強く要請

本クラブが活用する施設は、主に香南中学校体育館・運動場／香南体育館／香南庭球場／香南地区コミュニティセンターの4か所であり、クラブ事務所は香南中学校体育館の中にあります。全ての施設がクラブ事務所から徒歩圏内という恵まれた環境です。

中学校体育館内にクラブ事務所設置

高松市は、公共施設を高松市スポーツ振興事業団（現：高松市スポーツ協会）が一括で管理しており、高松市との合併に伴って、香南町の施設（香南体育館、香南庭球場等）も同事業団の管轄下に置かれることが決定しました。

そこで、高松市との合併前から、クラブ会長および副会長(体育指導委員)、クラブ事務局の町教育委員会社会教育主事の3名が中心となり、高松市のスポーツ担当部署と、『香南中学校体育館の休日・夜間開放』、『高松市が管理する公共施設の使用』について何度も協議を重ね、「総合型クラブが活用することで、地域住民がスポーツを行える場所の確保と施設の有効利用を兼ねることができる」ことを強く訴えていきました。

それが実り、クラブ設立後は香南中学校体育館に、クラブの事務所を構えることができました。

毎月「施設開放運営委」を開催→学校施設を有効活用

香南中学校体育施設は、平日朝・昼は中学校の授業や運動部活動で使用され、19:00～21:20はクラブが使用料を払って活用しています。会長、副会長、事務員らクラブ側6名と香南中学校教頭の計7名で構成する『香南中学校体育施設開放運営委員会』を毎月開催して、学校行事優先での利用調整を行っており、クラブが大会等で学校施設を特別使用する時は、学校に支障のない範囲で許可を得ています。

高松市から、中学校体育館の管理業務委託金として、年間90万円ほどの委託金がありますが、管理事務担当者への謝金として支払われているので、クラブの運営はボランティアで行われています。

3 クラブの活動が香南地区青少年の健全育成に大きく貢献

地域への効果や影響ですが、クラブ全体の活動により香南地区における青少年の健全育成および体力向上に大きく寄与しています。 施設面においては、香南中学校体育館のトイレやロビー、また体育館周辺が建設から十数年経った現在も、綺麗に保たれています。

クラブでは、香南中学校運動部活動との連携として、以下の活動も行っています。

・部活動にない硬式テニスをクラブで実施。月～土曜まで毎日2時間、週6回定期活動を行っており、各種大会にも出場しています。

・女子バレーボール部の人数不足を補う意味で、小学生を対象に『レクリエーションバレーボール』を開始。3年後には中学総体に出場できる人数を確保できました。

また、会員の30%超を60歳以上のシニア世代が占めており、地域住民の健康維持と介護予防に貢献しています。ニュースポーツのミニテニスやパドルテニスでは80歳を超える会員が気持ちいい汗を流しています。

なお、高松市にとっては、香南体育館、香南庭球場をクラブが定期活動で使用することで、毎月安定して使用料が納付されるといったメリットもあります。

■関係者の声

- 香南中学校　校長

「学校内にはテニスコートがなく、校外での活動が余儀なくされている。

学校と地域（香南ししまるスポーツクラブ）が積極的に関われる環境整備が図られており、子どもたちも伸び伸びと活動している。今後も、双方の連携をより深めていきたい」

- 香南地区コミュニティ協議会 事務局長

「地域住民の健康維持や介護予防に寄与され、地区の運動会、夏祭り、文化祭の3大イベント等の裏方としても、なくてはならない存在である」

4 香南中以外の活動場所・時間帯の拡大を図り、会員増につなげたい

先述の通り、高松市では現在、高松市スポーツ協会が一括で公共施設の管理を行っているため、総合型クラブが公共施設の指定管理者となることができません。また、学校体育施設も飽和状態であるため、高松市内のクラブにとっては、安定した活動場所の確保が最たる課題となっています。

そのような環境下で、香南中学校体育館の中に事務所を構え、安定した活動場所を確保できていること、また、クラブの実績が評価され、継続的に学校施設および公共施設の使用が認められていることは大変ありがたいと思っています。

一方、公共施設である香南庭球場、香南体育館については、他団体と同様、年間利用計画書を高松市スポーツ協会へ提出し、利用許可を得なければなりません。

会員をさらに増やしていくためには、クラブの活動時間帯の拡大（公共施設の利用時間の拡大）が必要であり、今後、小学校体育施設の利用調整に加わることも検討しています。

また、以下も課題となっております。

・運営スタッフの育成（ボランティア運営がいつまで続くか　運営に若者が加わる工夫）
・地区住民の加入率の向上（少子高齢化にいかに対応するか）
・シニア層対象種目の増加（介護予防の必要性あり）

今後、高松市における小・中学校体育施設の利用方法の見直しについて関係機関にアプローチし、総合型クラブの活性化と新たなクラブ設立に結び付けばと考えています。そして、総合型クラブを通じて、高松市の市民スポーツがより盛んになることを願っています。

（香南ししまるスポーツクラブ　会長　太田　盛廣）

クラブ プロフィール

設立年月日　平成17年12月19日

所在地　香川県高松市香南地区

運　営　会員数418名（令和元年10月31日現在）、予算規模700万円（令和元年度）

有給職員　6名（中学校体育館の鍵当番5名、広報担当1名）＝非常勤

特　徴　香南中学校体育館内に事務所を置き、設立当時から補助金に頼らない受益者負担を基本に、ボランティアスタッフで運営を行っています。
香南中学校体育館・運動場を活動の拠点とし、幼児から高齢者まで400名を超える会員が多種目のスポーツやニュースポーツを楽しんでいます。
近年は、香南中学校区外からの会員が全体の6割を占め、広域的にも必要なクラブになりつつあります。

表彰等　香川県教育文化功労者表彰（平成28年）
文部科学省生涯スポーツ優良団体（平成29年）

連絡先　〒761-1402　香川県高松市香南町由佐1464番地
TEL　087-879-1057（クラブ事務局）、090-8691-8829（会長携帯）
E-mail　sports-morimori-320@cd5.so-net.ne.jp
URL　http://kounan.ashita-sanuki.jp/

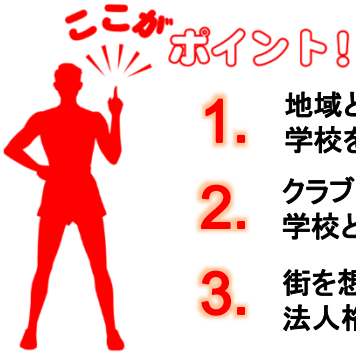
特 集

学校施設・公共施設を活用するクラブ

那覇新都心ゆいスポーツ・文化クラブ
＜沖縄県那覇市＞

総合型クラブが日常的な活動拠点として地域における身近な施設である学校施設・公共スポーツ施設・公民館等の社会教育施設を確保することは、クラブの安定的な活動・運営につながります。

そこで、学校施設・公共施設を活用し、地方公共団体や学校教育機関と連携する事例を紹介します。



1. 地域と学校側の想い・理念が一致し、学校を拠点とした街づくりにつながる
2. クラブが学校施設運営→融通利く柔軟性がメリット
   学校と住民の緩衝材→地域から信頼得る
3. 街を想う理念を大切に、無理なく続けるために
   法人格は取得せず「ゆるさ」を残す

1 クラブ概要

平成17年・18年に文部科学省の育成指定クラブ委託事業活用を経て、PTCA(Parent Teacher Community Associationの頭文字をとったもの)を主体に小学校を拠点としたクラブを設立しました。当時の学校長の「学校を拠点とした地域コミュニティの形成」への思いが、クラブ設立に大きく影響しています。

PTCA初代会長と初代校長が設立のキーパーソン

拠点とする銘苅(めかる)小学校の歴史が関係しており、同校の開校は2005年（平成17年）。米軍から返還された跡地にできた新しい街と新しい学校で、当初は住民の結束が弱いコミュニティだったそうです。そこで学校を拠点とした街を育てていくという地域の想いと、学校運営に地域の力を取り入れていく学校側の想いが一致し、PTCA初代会長の長堂和男氏（現在クラブ事務局長）と初代校長が、総合型地域スポーツクラブの創設に着手しました。

15定期教室と市民参画イベントも実施

野球、チア・バトン、ハンドボールや三線、お琴、茶道など8つのスポーツ活動と7つの文化的活動の計15の定期教室を開催しています。また、「ゆいフェスタ」と題して学校とクラブの協働により、市民も参画できるイベントを実施しています。このイベント名やクラブ名にも使用している「ゆい」ですが、沖縄方言の「ゆいま～る」の「ゆい」を採用したのもので、「結い」「協働」という意味があります。精神面や内面的な温かみのある、つながりを表現する言葉でもあります。地域や学校、住民の想いや心の結びつきを表しています。

2 学校長の理念を基に地域コミュニティを形成

学校長の思想により、「学校は地域の共有資産であり、地域の学び場にするべき」との理念を基に、開かれた地域コミュニティの形成に取り組みました。県外視察や行政への働きかけにより、現在の学校を拠点としたクラブ運営が実現しています。クラブは当時の行政との調整にはあまり参画しておらず、どちらかというと学校長により推進されてきました。

3 市の「お墨付き」得て、学校施設活用が円滑化

学校長から行政への働きかけにより、市の「学校体育施設の開放に関する規則」（注）にのっとり、総合型地域スポーツクラブが学校施設を管理できるよう位置付けられました。

注＝「教育長は、開放校の地域活動の推進を目的とする総合型地域スポーツクラブの代表者に、前項に規定する業務を行わせることができる」

不満持つ利用市民には丁寧に説明

計画段階でのクラブの苦労は無かったのですが、現行の学校施設開放の運営が始まると、利用料金の徴収によって住民の「お客様化」が進行しました。「駐車場が少ない」「学校のトイレが汚れている」など利用者からのクレームが増加したため、学校の特性や理念、受益者負担への理解について丁寧に説明していくことに苦労しました。

一方で、業務は増えましたが、施設管理で170万円程の収入を得ています。9割は管理スタッフへの報酬で消化しますが、活動場所の確保と住民や他団体との接点を得られることが利点です。

4 クラブが学校と市民の緩衝材に

【学校施設活用による2大メリット】

①利用者ニーズへの柔軟な対応が可能となり、利用者にとって融通が利くという点。

②クラブが学校と住民の緩衝材としての機能を果たし、信頼を得られる点。

公的機関による管理では時間外対応が困難ですが、クラブではあらゆる案件に柔軟に対応していきます。そのため利用者からは予約や施設・備品の受け渡しが容易になり、喜ばれています。

また、学校が行事を行う際、一部の近隣市民から否定的な意見により学校行事を中止するケースもありました。その際、クラブ主催事業へと位置付けを変換し、クラブが学校行事の実現に向けて協力することもあります。クラブは住民主体で構成された地域の団体のため、一般市民からの批判や接し方も緩和されるところも強みであり、これが緩衝材としての機能です。

なお、同市の学校体育施設管理の9割は行政から委嘱された管理人が担っていますが、施設貸し出し管理だけを担っている体制では、ここまでの対応はできないと思います。

その根底には、学校を拠点とした地域コミュニティを形成するという共通理念が学校側と地域側双方にあるため、柔軟性だけでなく、時には批判を恐れずに突き進める判断力や行動力となって表れています。

5 利用ニーズの分散化・均等化を図り課題解消へ

増加する学校施設の利用ニーズを満たせていないという課題があります。一般利用者へ拠点施設を明け渡すために、クラブでは近隣学校で定期教室を行うこともあります。今後は民間施設の活用も視野に入れ、利用ニーズの分散化・均等化に向けて取り組んでいこうと考えています。

無理なく「ゆるさ」重視

これからも良好な地域コミュニティの形成を目指していきます。人と人、人と団体、人と地域がつながる機会や接点をつくることが、クラブの立ち位置なのだと思います。

なお、後継者育成やクラブ継承については深く考えていません。街を想う気持ちは増す一方なので、無理なく続けられる「ゆるさ」を重視しています。そのため法人格は取得せず会社化しないよう「ゆるさ」を残してきました。大事なことは「街を想う理念が住民へ受け継がれていくこと」だと考えています。

（沖縄県体育協会　クラブアドバイザー　座間味 洋貴）

クラブ プロフィール

設立年月日　平成20年1月20日

所在地　沖縄県那覇市銘苅2－3－20（那覇市立銘苅小学校内）

運　営　会員数250名（平成30年3月現在）、予算規模470万円（平成30年度）

有給職員　2名

特　徴　小学校を拠点にスポーツ少年団や各種団体を組織した総合型地域スポーツクラブです。学校施設の管理も担い、住民と学校の橋渡しや学校を中心とした地域コミュニティの形成を目的に、スポーツから文化的活動まで幅広く展開しています。

連絡先　〒900-0004 沖縄県那覇市銘苅2－3－20
TEL　070-5696-6440
E-Mail　nagado29@gmail.com

特 集

他団体と連携するクラブ

NPO法人吉井スポレククラブ
＜岡山県赤磐市＞

総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのためには、地域社会からの信頼性を確保し、地域の各種機関・団体との相互補助の関係を築くことが必要となってきます。

そこで今回は、地域の各種団体と連携し、活動を行っている総合型クラブを紹介します。

1. クラブ所在地域にスポーツ団体が無く、
会議で出会った環太平洋大学の先生に相談し連携が始まる
2. 大学生のボランティア参画により、スタッフ不足が解消
大学生にとっても貴重な体験
3. 大学との距離があり学生の送迎に苦心
→大学側の協力で大学のバスを配車してもらう

1 クラブ概要

平成22年に総合型地域スポーツクラブ「吉井スポレククラブ」設立準備委員会を発足し、翌23年に設立総会を開催。平成25年7月にはNPO法人になるための設立総会を開催後、同年10月にNPO法人が設立されました。クラブの運営委員は、平成21年5月より地域のPTA・スポ少、体育指導委員等の代表者から集めました。

クラブの理念は、「だれでも、どこでも、いつでも、いつまでも」をスローガンに、スポーツに親しむことにより地域みなさんの生きがい、健康、仲間づくり、青少年の健全育成、明るく活気ある街づくりを目指すことです。

現在の活動状況としては、イベント（サマーフェスティバル、サイクリング大会等）の他にヨガ、ズンバ、太極拳、水中ウォーキング等様々な教室を実施しています。

2 環太平洋大学との連携を機に指導者派遣事業につながる

IPU環太平洋大学でレクリエーション系の科目を担当されていた先生と総合型クラブの会議でお会いし、クラブや事業・イベント等について話をする中で、当クラブがある地域にはスポーツ団体等が無いので、大学から指導者を派遣してもらえないか相談し、県体協からの支援を受け、派遣事業として、連携をするようになりました。

3 サマーウィーク等の事業に大学生がボランティアスタッフとして参加

「サマーウィーク」

・大学との連携事業として夏休みに実施

8月下旬の5日間に赤磐市吉井B&G海洋センターと小学校を活動場所とし、IPUとの連携事業として「サマーウィーク」を行っています。これはB&G財団から助成金をもらってやっている事業です。具体的な活動内容は、午前中に小学校で夏休みの宿題や予習復習などの勉強をし、午後からは赤磐市吉井B&G海洋センターのプールや体育館を活用し、遊ぶだけでなく、水辺での安全や防災についての学習活動も行っています

参加者は小学1年生～6年生までと幅広く、毎年15～20名ほどの子どもたちが参加してくれています。毎年、大学生もスタッフとして参加いただいており、今年のスタッフは大学生19人、職員1名と地域スタッフ2名の計22人です。大学生は、1人が5日間のうち3日間か2日間参加という形でした。大学生には、子どもたちと体育館やプールで遊んでもらい、勉強も教えてもらっています。また、水辺での安全プログラムや防災プログラムでも手伝ってもらっています。

・学童募集で苦心→小学校の協力で夏休み前に各学級でチラシ配布

サマーウィーク実施にあたり苦心したことは、子どもを集めることです。当クラブがある地域は年々子どもの数が減少傾向にあるため、募集をかけてもなかなか集まらなかったりします。そこで、小学校に協力してもらい、夏休み前には各学級でチラシを配ってもらったり、声掛けをしてもらったりしています。その結果、今年は20名ほどの子どもが参加してくれました。

「サマーフェスティバル」

9月初旬の「サマーフェスティバル」は、地域の人たちとの交流を目的としており、毎年たくさんの方が来てくれているイベントです。IPUの学生にはボランティアスタッフとして進行の補助や屋台のお手伝いをお願いしています。また、ステージイベントにはIPUのダンス部にも出演していただきました。

スタッフ数は、クラブの運営委員・役員とスポ少の保護者合わせて約30名と大学生14名です。サマーウィークにも参加してくれた学生なので、子どもたちがまた会えたことをすごく喜んでくれたのが良かったです。

「サイクリング大会」

10月下旬の「サイクリング大会」は全国各地より500名の方が参加するクラブ最大の事業です。学生スタッフは立ち番として各ポイントに立ち、参加者が楽しく安全に走行できるように努めてくれています。

スタッフ数は、クラブ運営委員・役員とスポ少の保護者、企業スタッフ合わせて約60名と大学生数名です。各ポイントにスタッフを配置しなければならないので、人員の確保が大変でした。

なお、今年は第10回大会でもあり伊原木岡山県知事にもご参加いただき、大いに盛り上がりました。

4 大学との連携で地域に密着した活動に発展

スタッフ不足のため、大学生の力は大きいです。大学と連携することで、より地域に密着した活動ができていると感じています。

また、大学生ボランティアの中には教員を目指している学生も多くおり、「学校へ行く教育実習とはまた違う感じで子どもたちと関わることができるのがいい」と言ってくれたり、他のイベントについても「普段体験できないようなことができたり、地域の人ともたくさん触れ合えるいい機会だ」との感想も出ています。

5 一番苦労したのは大学生の交通手段の確保

大学と連携をするにあたり一番苦労した点は、クラブまでの交通手段の確保です。大学からクラブまでは約30キロも距離があり、車が無いと絶対に来ることはできません。連携し始めたころは、学校の先生やクラブのスタッフで送迎をしていました。

今は、人数も増えたので、大学側からバスを出してもらえるようになりました。

6 大学との連携を密にし、イベントの発展と新たな挑戦を目指す

今後としては、大学との連携をさらに密にしていき、今あるイベントや事業をもっと発展させていくとともに、新たなことにも挑戦していけたらいいなと考えています。

クラブとしては、地域スタッフの人員不足をどうにか改善していきたいと考えています。

（NPO法人吉井スポレククラブ　事務局長　奇峯 正二）

クラブ プロフィール

設立年月日　平成25年10月25日

所在地　岡山県赤磐市草生1番地

運　営　会員数129名（令和元年12月現在）、予算規模200万円（令和元年度）

有給職員　3名

特　徴　NPO法人吉井スポレククラブは、赤磐市における体育・スポーツ活動の普及を図り、市民及び市内在勤者の心身の健全な発達と健康の増進、体力・競技力の向上を目指すとともに、明るく豊かな街づくりに寄与することを目的として活動しています。

連絡先　〒701-2502　岡山県赤磐市草生1番地(赤磐市吉井B&G海洋センター内)
TEL　086-954-2323　　FAX　086-954-2424
E-mail　info@yoshiisc.net
URL　http://yoshiisc.net/

特 集

他団体と連携するクラブ

スポーツクラブ美馬
＜徳島県美馬市＞

総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのためには、地域社会からの信頼性を確保し、地域の各種機関・団体との相互補助の関係を築くことが必要となってきます。

そこで今回は、地域の各種団体と連携し、活動を行っている総合型クラブを紹介します。

1. 過疎化・少子化で子どもの数が減少→2保育所と5幼稚園が統合し美馬認定こども園が新設→園とクラブの運動面での要望がマッチ
2. 小学1年生で実施する体育授業を就学前に経験することで、入学後の環境の変化や体育授業の戸惑いを解消
3. 連携3事業を通じ「体を動かす」ことを意識した保育に取り組み、幼児期に体を動かす基礎と習慣化を醸成

1 クラブ概要

当時の美馬町は徳島県を通して、文部科学省の「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業」の地域指定を受け、3年間様々な活動や研究をしてきました。その間に、美馬町は、「美馬町生涯スポーツ推進協議会」を立ち上げ、地域住民がスポーツに親しみ、各自の健康・体力の維持増進のみならず、地域社会のコミュニティーづくりをすることを目標に、平成16年3月28日に「スポーツクラブ美馬」を設立しました。

2 運動に親しむ各種教室を展開
地元に根付いたイベントも

現在は、設立時の趣旨である運動に親しむための教室として、バレーボール、フットサル、野球、卓球、グラウンド・ゴルフ、太極拳、カローリング、ターゲットバードゴルフ、フラ、エアロビクス、やさしいヨガ、ダンス入門を展開しています。

小学生のクラブチームとしては、「SC美馬インパルス（サッカー）」と「SC美馬ベースボールクラブ」の2チームが活動しています。

また、地域住民から文化的な活動も取り入れてほしいとの要望を受け、茶道、生け花、影絵、コーラス、古典を楽しむ会、読み聞かせの教室を新設しました。

さらに、クラブの3大イベント（夏の納涼祭、秋の運動会、冬のクリスマス会）を実施し、地域住民から地元に根付いたイベントとして受け入れられています。

3 新設された「美馬認定こども園」と
運動面で交流・連携

美馬町内には、2保育所、5幼稚園、5小学校と1中学校がありましたが、過疎化、少子化等により子どもの数が減少し、平成28年度に2保育所と5幼稚園が統合し、美馬市立美馬認定こども園が新しく設立されました。それまでもクラブは読み聞かせや昔遊び等で交流を図っていました。

新設された美馬認定こども園と運動面でも交流できないだろうかと考えていたところ、一般財団法人徳島県スポーツ振興財団が自主事業として総合型地域スポーツクラブ等の活動を支援する「地域活性化推進事業」の募集があることを知りました。

この推進事業は、「健康な町づくりを目指すとともに子どもから高齢者までのライフステージに応じた運動・スポーツのきっかけづくりの場の提供を通してスポーツ実施率の向上とスポーツを通じた地域の活性化を図る」ことを目的にしており、クラブと美馬認定こども園との要望がマッチしたことで「子どもの発達支援　運動遊び教室」等を実施することにしました。

なお、実施に至るまで、クラブと美馬認定こども園と県スポーツ振興財団の3者で事業化の調整を行いました。

4 「子どもの発達支援　運動遊び教室」を実施

（1） 事業名 「リズムであそぼう！」

（指導者＝クラブ内の指導者）

● 事業の目的

幼児期に伸び伸びと体を動かして遊ぶことは、心身の調和的な発達を促す上で重要な意味を持ちます。ここでは、音楽に合わせて体を動かし、楽しく遊びながら「リズム感・表現力」を養い、心と体を育てることを目的とします。

● 事業の内容

美馬認定こども園年少児及び年長児を対象に、ストレッチをした後、音楽に合わせてダンスをしました。

実施日	参加人数	会場
平成28年9月16日～平成28年12月16日まで　月1回　計4回	100名	美馬認定こども園
平成29年6月16日～平成30年1月19日まで　月1回　計8回	91名	美馬認定こども園
平成30年6月29日～平成31年1月18日まで　月1回　計6回	92名	美馬認定こども園

（2） 事業名 「幼児の運動能力調査」

（測定員＝クラブスタッフ、幼児運動能力調査測定員）

● 事業の目的

子どもの体力や幼児の運動能力低下が危惧されていますが、特に小学校に入学する前の幼児期に、しっかり体を動かす基礎や土台をつくることは、その後の発育・発達にも重要と言われています。本調査では、今後の指導の参考となるよう、運動能力調査を実施し、全国調査との比較や、園や家庭での身体活動環境と運動能力との関連などについて分析・評価することを目的とします。

● 事業の内容

美馬認定こども園年少児及び年長児を対象に、「25m走」「立ち幅跳び」「ボール投げ」「両足連続飛び越し」「体支持持続時間」「捕球」の6種目を測定し、子どもの運動能力を調査しました。

実施日	参加人数	測定結果 全国平均以上の割合	会場
平成30年6月26日	92名	56%	美馬中学校体育館
令和元年6月24日	92名	64%	美馬中学校体育館

運動能力調査をきっかけに、園ではボール投げやマット運動等、様々な動きを取り入れたサーキットトレーニングを採用しました。また、クラブにおいては、年長児を対象に「小1体育デビュー教室」を行い、様々な運動遊びを取り入れることにより、2回目の実施時には測定結果が1回目から8%アップしました。

（3） 事業名 「小1体育デビュー教室」

（指導者＝元小学校教員）

● 事業の目的

小学生になると体育の授業が始まり、多種多様で複雑な動きを習得していきます。最近の子どもは外遊び等が減少していると懸念されていますが、外遊びを含む遊びに慣れていない子どもは、就学前の動きの習得が未熟であったり、経験がなかったりして体育の授業に戸惑うことも考えられます。小学1年生で実施する体育授業の導入を経験することで、入学に伴う環境の変化や体育授業の戸惑いから運動嫌いになる子どもをつくらないようにし、地域の子どもへの発育・発達の支援を通じて、活力を創出することを目的とします。

● 事業の内容

小学校入学を控えた園児が、スムーズに小学校で学習できるように、小学1年生の学習指導要領に基づき、運動遊びを実施しました。

実施日	参加人数	会場
平成31年1月16日、23日、30日　計3回	43名	美馬中学校体育館
令和2年1月14日、21日、28日　　計3回（予定）	51名（予定）	美馬中学校体育館

5 連携先の美馬認定こども園から効果大との評価

この「子どもの発達支援　運動遊び教室」を実施したことは、子どもたちの発育・発達にとって、とても良かったと思っています。美馬認定こども園からは、それぞれ次のような感想がありました。

● 「リズムであそぼう！」

ストレッチも組み合わせ、体をほぐしながらの全身運動で心身共に健康づくりができる内容であり、日々の保育にも取り入れるようになりました。

● 「幼児の運動能力調査」

運動能力調査の結果を数値化することで全体的な傾向を把握し、園児に運動遊びの楽しさを味わってもらいながら、日々の保育で体力を伸ばす運動遊びをする時間を多くしていきたいです。室内では「跳び箱、平均台、マット、バランスストーンや巧技台」を組み合わせたサーキット遊びができる環境を構成し、戸外では、縄跳び、ボールを使う機会を増やすなど「体を動かす」ことを意識した保育を取り組むようになりました。

● 「小1体育デビュー」

スムーズな小学校入学への一助となっています。また、運動の内容も個人、友達同士、次はチームでゲーム形式と段階的に集団が大きくなるように工夫されており、園児は活動時間いっぱいに楽しんでいました。運動の楽しさを十分に味わえる内容でした。

これらのことからも「子どもの発達支援　運動遊び教室」の効果は大きいものがあったと思います。幼児期に体を動かす基礎と習慣化の醸成ができました。

6 日程調整に苦心も、園・中学・地域ボランティアの協力で推進

徳島県は全国的にみて小中学生の運動能力が低く、この取り組みを通じ、その一助になればと思い、本事業を実施しました。

今回新たな取り組みになった本事業を推進するにあたっては、連携した美馬認定こども園、中学校、地域のボランティアの方々には積極的にご協力をいただき、本当にありがたかったです。ボランティアの中には、「小さい子どもと交流できてよかった」、「みんなのお役に立ててうれしい」、「また声をかけてほしい」という方もおり、地域活動への理解を深めていただきました。

美馬認定こども園も中学校も多くの行事がある中での実施となるため、日程調整には苦労もありましたが、多くの方のご協力でスムーズにできたと感謝しています。

7 指導者と会場の確保が今後の課題

現在クラブは16年目を迎え、行政や学校、地域住民の協力を得て順調に活動を続けています。設立当初から試行錯誤しながら、地域住民の要望に耳を傾け、少しずつではありますが教室数は増えています。しかしながら、指導者や会場の確保が難しく、要望があっても開講できない教室もあります。

課題を一つずつ乗り越え、今後も地域の人々の要望や実態に応えられるスポーツクラブであり続け、地域と共に前進をしていきたいです。

（スポーツクラブ美馬　会長　青木 博美）

クラブ プロフィール

設立年月日　平成16年3月28日

所在地　徳島県美馬市美馬町

運　営　会員数321人（令和元年12月現在）、予算規模350万円（令和元年度）

有給職員　0名

特　徴　クラブは「だれでも」「いつでも」「どこでも」「いつまでも」を活動理念に掲げ、地域住民が運動に親しみ、人々が交流し、地域が活性化することを目標に活動に取り組んでいます。年会費3,000円（小中学生及び70歳以上の会員は2,000円）を納めると、ほとんどの教室は参加費なしで参加をすることができます。しかし、エアロビクスのように外部講師を依頼している教室は、別途集金をしています。
最近は、運動の教室だけでなく、コーラスや生け花教室のような文化的な教室も開いています。夏の納涼祭、秋の運動会、冬のクリスマス会はクラブの3大イベントとして地域に定着しています。

連絡先　〒771-2106　徳島県美馬市美馬町字大泉51番地1
TEL　0883-63-3422　　FAX　0883-63-3422
E -mail　info@mimaspo.sakura.ne.jp